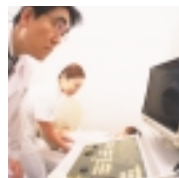


第14期中間事業報告書

2005年4月1日～2005年9月30日



GREEN HOSPITAL SUPPLY

グリーンホスピタルサプライ株式会社

証券コード：3360



最新ニュースハイライト

当社の最新の主な動きをご紹介します

売上高・経常利益・中間純利益のすべてが対計画以上を達成しました。

市場が激しく変化中、そこから生まれる新たな需要の取り込みや大型プロジェクト案件の深耕などに努めた結果、連結売上高は対計画(2005年5月17日発表)比4.8%増、経常利益は同12.7%増、中間純利益は同11.5%増を達成。また対前年同期比でも増収増益を達成しました。

動物病院を運営する新会社「(株)アニマルメディカルセンター」を設立しました。

動物の生命を守る人である獣医師が抱える問題をソリューションするべく、2005年6月13日に動物病院を運営する新会社を設立。ペット関連ビジネス分野へ参入することといたしました。なお同社が運営する動物病院は2006年4月開業の予定です。

SPDシステムのトータルコンサルティング会社「(株)エム・アール・ピー」と資本・業務提携いたしました。

院外型SPDシステム(診療材料等の一括供給による院内物流代行システム)の受注拡大・システム向上を目指し、同社と業務提携を締結しました。また関係強化を図るべく、同社の株式を一部取得しております(2005年7月)。

当社連結子会社「誠光堂(株)」が子会社を設立しました。

主として和歌山県下の医療のIT化に対応することを目的として、2005年8月4日に誠光堂(株)は、電子カルテ・レセコンシステムの販売およびメンテナンスを行う新会社「セイコーシステム(株)」を設立しました。

財務ハイライト(単体及び連結)

(単位:百万円)	単 体						連 結				
	2002/3	2003/3	2004/3	2004/9 (中間期)	2005/3	2005/9 (当中間期)	2003/3	2004/3	2004/9 (中間期)	2005/3	2005/9 (当中間期)
売上高	459	24,129	29,639	10,950	33,420	13,386	35,145	44,045	18,640	52,860	22,012
営業利益	125	924	1,252	225	1,517	325	1,422	1,639	502	2,713	775
経常利益	110	1,085	1,482	376	1,751	490	1,357	1,584	480	2,515	811
当期(中間)純利益	80	352	850	184	990	291	484	834	224	1,305	513
総資産	19,828	21,731	21,622	16,802	31,271	28,344	29,219	34,890	30,903	47,410	47,254
株主資本	2,287	2,898	4,158	4,390	10,238	10,142	2,477	3,734	4,001	10,130	10,276

トップインタビュー

おかげさまで計画以上の業績を達成 次の成長に向けた戦略が着実な 成果を生み出しています



代表取締役社長
古川 國久

Q1. 当中間期の決算の概要について教えてください。

A1. 当社は「医療」「保健」「福祉」の分野に特化して事業を展開している会社です。近年、これらの分野では行政による法制度の見直しが頻繁に行われ、経営環境の変化そして企業間競争の激化が続いています。このような環境の下、当社では、新しい変化と競争の中にこそ、新たなビジネスチャンスやニーズがあるものと考え、それらを旬のタイミングで捉えるべく経営に注力してまいりました。その結果、トータルパックシステム事業、メディカルサプライ事業、ヘルスケア事業の3事業全てが好調に推移し、当中間期の主な業績としては、連結売上高は前年同期比18.1%増の22,012百万円、営業利益は同

54.5%増の775百万円、経常利益は同68.8%増の811百万円、中間純利益は同129.0%増の513百万円となり、増収増益を達成することができました。当中間期は、株式公開(2005年2月)後の純然たる事業年度として初の決算期であり、私自身、特に気を引き締めて経営にあたってまいりました。その成果として、まずはこのような業績報告を株主の皆様に行えることを大変嬉しく思っております。しかし決してこれに甘んずることなく、当社グループはS.H.I.P.理念の下、全グループ社員が一丸となって、さらなる企業成長を目指していく所存でございます。

グループ理念

しせいそくだつ
至誠惻怛というSHIPからS.H.I.P.へ
Sincere+Humanity+Innovation+Partner
(誠実な心) (「情」の心) (革新者の気概) (パートナーシップ)

グループアイデンティティ

地球と地域にやさしい
「生命を守る人の環境づくり」
を目指して

トップインタビュー

Q2. 中核となるトータルパックシステム事業が順調に展開されていますね。

A2. トータルパックシステム事業は当社ビジネスモデルの牽引役を果たしている事業です。当中間期においても、業界最高峰のコンサルティング能力とソリューション提案を以って、「お得意先」であると同時に「事業パートナー」でもある医療機関のニーズを先取りするなど、その役割を見事に果たしてくれました。

この数年来、国公立・民間の双方で病院のコスト削減意識が高まりを見せていますが、最近ではそのような傾向に加えて、受注案件の大型化が顕著になってまいりました。官から民へという大きな流れという外部要因もありますが、病院経営に関する全方位型の高度な専門知識やノウハウを有する当社が市場で高い評価を得ている証しでもあると分

析しています。

このようなニーズに的確にお応えすべく、当社では、これまで取り組んできたコンサルティング・ソリューションの強化に加えて、トータルサービスプロバイダー機能の強化への注力展開という新しい方向を経営に導入することいたしました。簡単な言葉で言い換えれば、「病院関連サービス事業のトータルパックビジネス」のようなイメージでお考えいただければと思います。今日まで培ってきたコンサルティング・ソリューション能力にトータルサービスプロバイダー能力をプラスしていくことによって、当社ならではの強みを発揮してまいります。

Q3. メディカルサプライ事業、ヘルスケア事業の

取り組み状況についてもお聞かせください。

A3. 両事業とも順調に推移しております。メディカルサプライ事業では、院外SPD受注件数が前年同期比4件増の19件(その他にクリニック6件増)となり、また主な案件としては、福井大学のマネジメント改革の一環として院外SPDシステムを利用した診療材料の一括供給を受注し、業績に貢献しました。

当社はこれまで事業の3本目の柱としてヘルスケア事業の育成に注力してまいりましたが、同事業が順調に売上を伸ばしていることが、当中間期のポイントの1つと言える

かとも思います。同事業の中ではライフケア部門として介護付有料老人ホームを展開していますが、既に稼働中の「ウエルハウス尼崎」「エスペラル城東」に加えて、当中間期では新たに2施設の着工に入りました。将来的には医療法人に対して介護付有料老人ホームの運営認可がおりる計画もあり、そこに当社ヘルスケア事業のノウハウや資金調達力をもってジョイント展開を図ることにより、一層の成長が期待できるものとも考えております。

経営支援型SPCシステムの展開

将来求められる経営支援型SPCシステムの導入を視野に入れて、病院運営に関わる「トータルサービスプロバイダー」機能の強化・拡大へ

近年、国公立・民間の双方で病院経営の意識改革が高まりを見せ、また、民間の資金・能力を導入して低廉な公共サービスの提供を目指すPFI(Private Finance Initiative/民間からの資金投入)の導入が進むものとも思われます。当社はこのような社会環境に的確に呼応すべく、単なる医療設備・機器の提供だけではない、経営支援型SPC(Special Purpose Company/特別目的会社)システムの構築、ノウハウの取得を目指してまいります。

一般にPFIにおけるSPCは資金調達のために設立されることが多いのですが、この事業システムでは、それに加えて「サービスプロバイダー」機能を主に果たすものとなります。当SPCは、経営そして「実際に業務に従事する『人』の面

も含めたサービスの両方において、従来よりも効率化・質の向上を実現する医療環境を病院に提供していきます。また当社は当事業システムの中核企業として、SPCの中にあって、病院への経営支援とともにサービスプロバイダーコンサルティングを実践していきます。

これまで当社が培ってきたコンサルティング・ソリューション能力を「サービスプロバイダー」という形で飛躍させ、この度このような新しいビジネススキームを確立していくこととしました。グリーンホスピタルサプライは今後とも重要な企業ミッションである、変化を先取りした「生命を守る人の環境づくり」の実践に努めてまいります。

経営支援型SPCシステムの概要



トップインタビュー

Q4. 競争や変化が激化する中、継続成長へ向けて

どのような経営方針・ビジョンをお持ちですか。

A4. 大きく分けて3点挙げられます。1点目が先にご説明申し上げた、トータルパックシステム事業の経営支援型SPCシステム展開へのシフトです。これにより、コンサルティング・ソリューション重視型ビジネスの展開から、次のビジネスステージへの飛躍を目指してまいります。

2点目が、M&A戦略の推進です。M&A展開においては、「医療再生ビジネスの一環として病院の再生を中心としたM&A」、「サービスプロバイダー対応能力強化など独自の事業展開のためのM&A」、この2つの視点をもって行ないます。前者のものとして当社はこれまで多くのM&Aを実施、それを一助として今日の成長に至ってまいりました。経営支援型SPCシステムを意識した事業展開を図る今後においては、後者の視点としてのM&Aを積極的に展開していく方

針です。3点目が、会社そしてビジネスの底上げの要となる「社員一人ひとり」のスキルアップです。余談ですが、私は常々、社員に「お客様のご要望に対して『NO』は絶対有り得ない」と話しています。社員全員がそれを忠実に守り、今日のグリーンホスピタルサプライを支えてくれているのだとも思っています。

ビジネスモデル、経営の新しい舵取り、そして人、これらに相乗的に取り組み、まずは通期目標である連結売上高60,000百万円、経常利益3,000百万円、当期純利益1,630百万円の達成に向けて、そしてその先にある2012年度2,000億円の達成に向けて、グリーンホスピタルサプライは日々の経営に邁進してまいります。

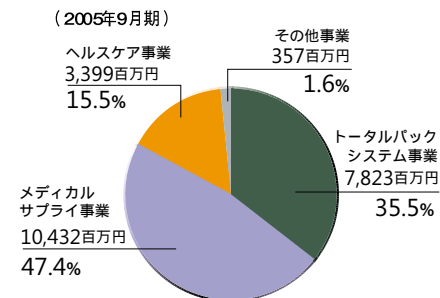
Q5. 最後になりますが、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A5. 当社では株主価値向上を、経営の最重要テーマの1つとして捉えております。その一環として当中間期では、2005年6月末現在の株主の皆様に対して、1株を5株にする株式分割を実施させていただきました。今後とも株主の皆様への利益還元積極的に努めていく方針でございます。

経営環境は激しい競争と変化が予想されますが、それらに左右されることなく、当社は着実な経営計画をもって成長軌道を守っていきたく考えております。株主の皆様方におかれましては、当社に対する引き続いてのご指導・ご鞭撻の程、重ねてよろしくお願い申し上げます。

事業別の状況

■ 事業別売上高(連結) 構成比

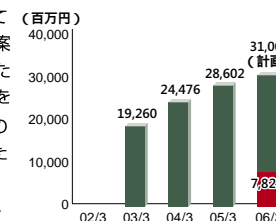


■ 事業内容

トータルパックシステム事業	医療機関の新設移転・増改築及び医療機器購入等のニーズに対する総合的なサービスの提供 ●企画運営・医療設備コンサルティング ●医療機器・医療設備等の販売及びリース ●建設工事、不動産賃貸業務、その他 ●以上の業務の一括受注
メディカルサプライ事業	医療機関に対する診療材料・医療用消耗品等の販売 ●ルート販売 ●院外SPDシステムによる一括供給販売 ●専門領域別の専門販売
ヘルスケア事業	「調剤薬局部門」と「ライフケア部門」の2部門で展開 ●調剤薬局部門 ●大規模病院周辺の門前薬局の運営 ●ライフケア部門 ●介護付有料老人ホームの運営
その他事業	理化学・環境機器等の販売 動物病院の運営

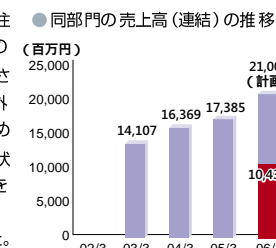
トータルパックシステム事業

当中間期では特に、長期管理している大型プロジェクト案件の深耕をはかるとともに、大型放射線機器の中で旬の商品となっているPET/CTの拡販に努めました。首都圏でのプロジェクト案件の利益額が当初予定を下回る等のマイナス要素もありましたが、市場変化の中で顕著となった病院再生ビジネス(病院M&Aを含む)の商機に対して、新たに蓄積した金融技術とともに既存のノウハウを活用して収益を上げることにより、当初予定していた売上・利益を上回ることができました。これらの結果、同事業の売上高は78億23百万円となりました。



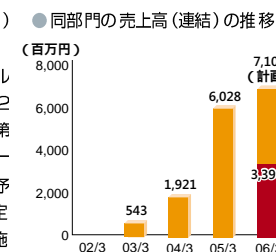
メディカルサプライ事業

当中間期においては、新たに3病院の院外SPDシステムの受注に成功し、さらには福井大学に引き続き国立大学法人富山大学の院外SPDシステムの受注にも成功するなど、順調に売上を伸ばさせることができました。また同事業では前期より引き続き、院外SPDシステムの運営合理化によるコスト削減と利益率向上に努めてきました。当中間期ではその効果が当初目標に達していない状況にあり、今後も経営合理化を重要課題と位置づけて、効率化を図っていく予定としています。これらの結果、同事業の売上高は104億32百万円となりました。



ヘルスケア事業

調剤薬局部門では、経営効率化の一環として(有)新世紀と(有)わかばの2法人を、(有)わかばを存続会社として合併しました。ライフケア部門においては、2004年4月オープンの「ウェルハウス尼崎」は満室状況にあり、2005年6月にオープンした第2号施設「エスベラル城東」も順調に実績を重ねています。また、第3号施設「ライフコート春秋」、第4号施設「守口佐太有料老人ホームラガール」の2施設についても、2006年9月～10月に開所予定が決定しています。加えて当初第1段階として目指していた定員1,000人規模へ向けて、大阪府茨木市の定員203人規模の施設計画が2005年度内開所の予定で順調に進んでいます。なお第2段階としては既に「街づくり」と「医療と介護の直結型」を基本コンセプトに、千里中央駅再開発事業に関わる街づくりへ参画し、関連用地を買収するとともに、現在大規模病院と介護付有料老人ホームとの合築モデルの事業化に着手しています。これらの結果、同事業の売上高は33億99百万円となりました。



介護付有料老人ホーム 「エスペラル城東」^{2005年6月}_{オープン}が 順調に稼動しています。

当社ライフケア部門では、介護付有料老人ホームの開発・運営を展開しています。そこでは、当社ならではの「医療と介護のコラボレーション」という医療の視点からの発想の下、事業パートナーとの共同による「高品質サービスの提供」「安心ネットワーク」、都市型大規模ホームでの保育所・通所施設を取り入れた「多機能型施設」展開、年金の範囲内での利用を念頭においた「低価格利用料」などに努めています。

2004年4月にオープンした第1号施設「ウェルハウス尼崎」(兵庫県尼崎市/定員146名)に続き、当中間期では2005年6月に「エスペラル城東」* (大阪市城東区/定員308名)がオープンしました。利用者の皆様に、常に希望に



向かって生き生きとお過ごしいただける家を提供していきたいという当社の想いを込め、スペイン語で「希望に向かって」という意味の「esperar」と名付けました。おかげさまでもちまして現在のところ申込者数も100名を超え順調に推移し、「ウェルハウス尼崎」にいたっては、開所1年を経過し満室にて安定した運営が推進されています。

今後は「ライフコート春秋」(大阪府羽曳野市)、「守口佐太有料老人ホームラガール」(大阪府守口市)、「茨木(仮称)」(大阪府茨木市)の開設を予定しています。医療機関とのパートナーシップを最大限に発揮し、これからも随時開設を計画していきます。

*エスペラル城東のウェブサイト (<http://www.ghs-inc.co.jp/esperal>) がオープンしました。是非ご覧ください。

●介護付有料老人ホーム一覧(計画を含む)

施設名	運営担当	定員	オープン日
ウェルハウス尼崎	ユナイテッドライフ(株)	146名	2004年4月
エスペラル城東	ホロニックライフ(株)	308名	2005年6月
ライフコート春秋	春秋ライフ(株)	160名	2006年9月
守口佐太有料老人ホームラガール	弘道会ライフ(株)	188名	2006年10月
茨木(仮称)	あいのライフ(株)	203名	2006年度中



サービスプロバイダー機能強化を目指し、 グリーンエンジニアリング(株)を設立しました。

2005年3月に当社ではサービスプロバイダー機能強化の一環として、国立大学法人東京医科歯科大学との間で核医学・PET検査*サービスの提供事業を開始することで合意。この新規ビジネスに着手するために東芝メディカルシステムズ(株)他との共同出資で、グリーンエンジニアリング(株)を設立しています。グリーンエンジニアリング(株)は、施設整備・検査センターの運営等を含めたPET検査に関わるあらゆる業務委託を東京医科歯科大学から受ける形となります。

医療提供体制の抜本的改革に向けて2004年4月に独立行政法人化がスタートし、国公立大学の付属病院は現在、医療提供機能の強化を目指したマネジメント改革の途上にあります。医療機関を取り巻く環境の変化や制度改革等を的確に捉え、今後ともビジネスチャンスの拡大に努めてまいります。

*通常の画像診断(X線CTやMRI・超音波など)は腫瘍の形や大きさを見る検査であるのに対し、PET(Positron Emission Tomography)検査は腫瘍細胞の悪性度まで知ることができると考えられており、高い注目を集めています。

これまでの間、多くの病院M&Aを手がけた実績を持っており当社だからこそできる新たな金融技術を駆使した病院再生事業を当中間期に2件成約し業務を完了。現在も継続して3件の病院再生事業に関与しております。

病院は地域社会にとって公器であるとともに、その存在は地域にとって医療だけでなく雇用・消費の上でもかけがえのないものといえます。病院の再生事業は、まさに地域社会の公器を守る社会貢献事業であるとともに、再生後の病院の発展は、当社の将来にわたるビジネスステージを創生する貴重な事業であるといえます。

一方で昨今、金融機関の不良債権処理も一定の成果が上がったといえますが、これは、貸倒引当を積み銀行サイドの視点であり、貸出先の現場サイドでは、具体的な不良債権処理と事業再生プランの構築を進める必要があります。当社は、当会計年度に必要な金融技術ノウハウの取得、実践を通じ、豊富な病院M&Aノウハウを融合した病院再生ビジネススキームを確立し、さらなる商流の拡大を図っております。

豊富な病院M&Aノウハウに金融技術を加味して 病院再生事業に着手しています。

連結財務諸表

(単位：百万円)

連結貸借対照表	当中間期 平成17年9月30日現在	前中間期 平成16年9月30日現在	前 期 平成17年3月31日現在
【資産の部】			
流動資産	27,123	17,650	31,840
現金及び預金	3,802	3,900	10,726
受取手形及び売掛金	10,924	9,593	17,720
たな卸資産	2,378	2,469	1,996
短期貸付金	4,714	439	217
立替金	3,582	-	0
その他	1,805	1,295	1,256
貸倒引当金	△ 83	△ 47	△ 76
固定資産	20,131	13,253	15,569
有形固定資産	14,777	9,351	10,571
建物及び構築物	4,302	1,702	1,675
賃貸資産	1,414	1,577	1,478
土地	4,880	4,416	4,855
賃貸土地	2,653	-	758
その他	1,526	1,654	1,802
無形固定資産	492	569	553
投資その他の資産	4,860	3,332	4,445
長期貸付金	1,123	1,386	1,058
その他	4,007	2,221	3,657
貸倒引当金	△ 269	△ 275	△ 271
資産合計	47,254	30,903	47,410

1▶

2▶

1▶ 現金及び預金、受取手形及び売掛金

前会計年度の下期において計上した大型プロジェクトの売掛金等の回収及び仕入債務の支払により、売掛金は前期末よりも60億20百万円減、現金及び預金は同69億23百万円減となりました。これらが流動資産の主な減少要因です。

2▶ 建物及び構築物、賃貸土地

前期より手掛けているヘルスケア事業におけるライフケア部門の施設等に関して、建物及び構築物が前期比26億26百万円増、またトータルバックシステム事業での事業用地取得により賃貸土地が同18億95百万円増となりました。これらが固定資産の主な増加要因となっています。

【負債の部】	当中間期 平成17年9月30日現在	前中間期 平成16年9月30日現在	前 期 平成17年3月31日現在
流動負債	24,445	17,382	28,065
支払手形及び買掛金	11,970	10,348	22,450
短期借入金	9,286	3,706	2,196
1年以内返済予定長期借入金	986	1,470	917
未払法人税等	400	235	656
賞与引当金	228	198	188
その他	1,573	1,423	1,655
固定負債	12,508	9,510	9,182
社債	2,130	2,614	2,522
長期借入金	9,258	6,192	5,594
退職給付引当金	74	70	69
役員退職慰労引当金	39	35	37
その他	1,006	599	959
負債合計	36,953	26,893	37,247
【少数株主持分】			
少数株主持分	25	9	32
【資本の部】			
資本金	2,288	570	2,288
資本剰余金	3,215	376	3,215
利益剰余金	4,101	2,794	3,876
その他有価証券評価差額金	671	259	750
自己株式	△ 0	△ 0	△ 0
資本合計	10,276	4,001	10,130
負債 少数株主持分及び資本合計	47,254	30,903	47,410

3▶ 有利子負債

病院再生事業のスキームの一環として一時的に調達した借入金の増加、ヘルスケア事業におけるライフケア部門の施設建築資金等に関する長期借入金の増加などにより、当中間期末の有利子負債（短期借入金＋1年以内返済予定長期借入金＋社債＋長期借入金）は前期末に比べ104億30百万円増となりました。

4▶ 資本合計

その他有価証券差額金が前期末よりも79百万円減少した一方、利益剰余金が2億25百万円増加したことにより、当中間期末の資本合計（株主資本）は前期末に比べ1億46百万円増となりました。

(単位：百万円)

連結損益計算書	当中間期 平成17年4月1日～ 平成17年9月30日	前中間期 平成16年4月1日～ 平成16年9月30日	前 期 平成16年4月1日～ 平成17年3月31日
売上高	22,021	18,640	52,860
売上原価	19,172	15,978	45,508
5▶ 売上総利益	2,839	2,662	7,352
販売費及び一般管理費	2,063	2,159	4,638
6▶ 営業利益	775	502	2,713
営業外収益	163	165	253
営業外費用	127	187	451
経常利益	811	480	2,515
特別利益	0	88	95
特別損失	0	3	117
税金等調整前中間(当期)純利益	811	565	2,493
法人税、住民税及び事業税	416	227	1,031
過年度法人税等	-	33	34
法人税等調整額	△ 107	85	126
少数株主損失	10	4	5
7▶ 中間(当期)純利益	513	224	1,305

5▶

6▶

7▶

5▶ 売上総利益

調剤事業部門の売上原価計上基準を他の調剤事業会社と同様に、医薬品仕入高＋直接経費（人件費含む）に変更したため、売上総利益率が前中間期比1.4ポイント減の12.9%となりました。

6▶ 営業利益

売上総利益と同様に、調剤事業部門の会計処理基準を変更したことが主な要因となり、営業利益率は前中間期比0.8ポイント向上し3.5%となりました。

7▶ 中間純利益

売上拡大と収益性向上に加えて、前期末までにおいて固定資産除却・売却損の計上を一通り終えることができたこと等により、中間純利益率は前中間期比1.1ポイント向上し2.3%となりました。

(単位：百万円)

連結キャッシュ・フロー算書	当中間期 平成17年4月1日～ 平成17年9月30日	前中間期 平成16年4月1日～ 平成16年9月30日	前 期 平成16年4月1日～ 平成17年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,539	△ 373	6,269
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,302	△ 499	△ 1,032
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,374	835	2,605
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	0	0
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	△ 6,468	△ 38	7,842
現金及び現金同等物の期首残高	10,193	2,370	2,370
連結範囲変更に伴う現金及び現金同等物の減少額	-	△ 19	△ 19
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	3,725	2,312	10,193

8▶

9▶

8▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー

大幅な増益に伴い税金等調整前中間純利益を8億11百万円計上しましたが、病院再生事業スキームの一環として一時立替金が35億79百万円発生したことなどにより、営業活動によるキャッシュ・フローは前中間期比71億66百万円減となりました。

9▶ 現金及び現金同等物の中間期末残高

営業活動によるキャッシュ・フロー(CF)はマイナス75億39百万円となり、投資活動CFは主に有形固定資産の取得による支出増などによりマイナス93億2百万円となりましたが、財務活動CFは長・短期借入の増加などによりプラス37億25百万円となった結果、当中間期末における現金及び現金同等物の残高は前中間期末に比べ14億12百万円増加しました。

単体要約財務諸表

(単位：百万円)

単体要約貸借対照表	当中間期 平成17年9月30日現在	前中間期 平成16年9月30日現在	前 期 平成17年3月31日現在	【資産の部】	当中間期 平成17年9月30日現在	前中間期 平成16年9月30日現在	前 期 平成17年3月31日現在	【負債の部】
流動資産	18,950	12,370	22,949	流動負債	15,849	9,267	18,181	
固定資産	9,393	4,432	8,321	固定負債	2,351	3,144	2,851	
有形固定資産	998	1,032	1,029	負債合計	18,201	12,412	21,033	
無形固定資産	55	10	54	【資本の部】				
投資その他の資産	8,340	3,389	7,237	資本合計	10,142	4,390	10,238	
資産合計	28,344	16,802	31,271	負債資本合計	28,344	16,802	31,271	

(単位：百万円)

単体要約損益計算書	当中間期 平成17年4月1日～ 平成17年9月30日	前中間期 平成16年4月1日～ 平成16年9月30日	前 期 平成16年4月1日～ 平成17年3月31日
売上高	13,386	10,950	33,420
売上原価	12,009	9,841	29,915
販売費及び一般管理費	1,052	884	1,987
営業利益	325	225	1,517
営業外損益	165	151	233
経常利益	490	376	1,751
特別損益	0	0	△2
中間(当期)純利益	291	184	990

株主還元方針

当社グループは、株主の皆様に対する利益還元を経営上の最重要課題と位置づけております。また等しく当社では、現在成長軌道にある当社の将来の事業展開と経営基盤の強化のため、必要な内部留保資金を確保することも重要な課題であると位置づけております。従いまして、当面の間は内部留保を厚くし、積極的な事業展開及び財務体質の強化を図りながら、将来の事業拡大に役立ててまいりたいと考えております。なお1株当たり配当金の通期計画といたしましては、1株当たり600円を予定しております。

株式関連情報 (2005年9月30日現在)

株式の状況

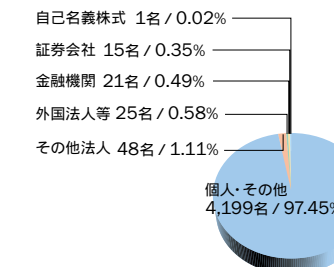
会社が発行する株式の総数……………540,000株
発行済株式の総数……………287,030株
株主数……………4,309名

大株主

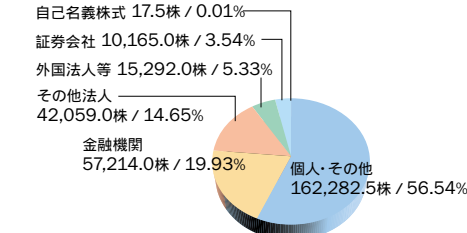
	持株数	出資比率
古川 國久……………	35,185株	12.26%
有限会社ココロ……………	33,819株	11.78%
日本スタートラスト信託銀行株式会社……………	18,300株	6.38%
資産管理サービス信託銀行株式会社……………	17,349株	6.04%
古川 幸一郎……………	15,850株	5.52%
グリーンホスピタルサプライ従業員持株会……………	13,075株	4.56%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社……………	6,984株	2.43%
日興シティ信託銀行株式会社……………	4,500株	1.57%
大和証券エスエムビーシー株式会社……………	4,377株	1.52%
野村証券株式会社……………	3,998株	1.39%

株式分布状況

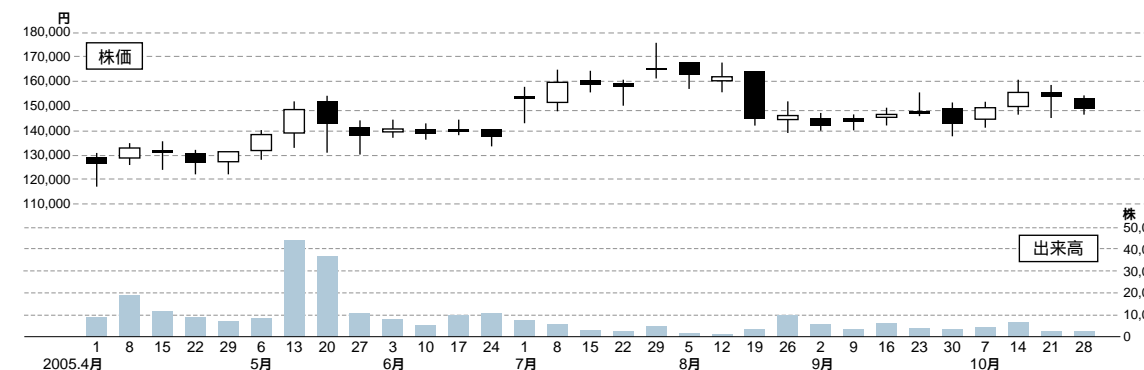
株主数別分布状況



株式数別分布状況



株価・出来高の推移



株主アンケート集計結果のご報告



第13期事業報告書において株主の皆様アンケートのお願いとして、4,138名の株主の皆様（2005年3月31日現在）に対してアンケートを実施させていただきました。多くの株主の皆様からご協力いただきましたことを、ここに厚く御礼申し上げます。その一部ではございますが、アンケートの集計結果や皆様方からのお声をご紹介します。



経営に対する様々なご意見

- 応援しています。健全な医療の在り方を目指して欲しい。
- 業績が大変向上していることから貴社の努力が伺えます。今後ともさらなる向上を望みます。
- 株主資本の充実、有利子負債の削減を図ってほしい。
- 利益のみに走るのではなく、倫理観を持った経営を目指していただきたい。
- コンプライアンスと道義を重視し、王道を歩くようにしてください。

業績内容とともに、当社の事業の社会的意義を評価されるコメントを数多くいただいたことを、大変嬉しく思っております。また一方で、財務内容に対するご意見も幾つか頂戴いたしました。P8のビジネストピックスで「病院再生事業」をご説明させていただきましたが、借入金の増加などは同事業の過程における一時的なものであるとご理解いただければと思います。今後とも当社はS.H.I.P.理念を大切に、企業価値の向上に努めていく所存でございます。

事業報告書・IR活動に対する様々なご意見

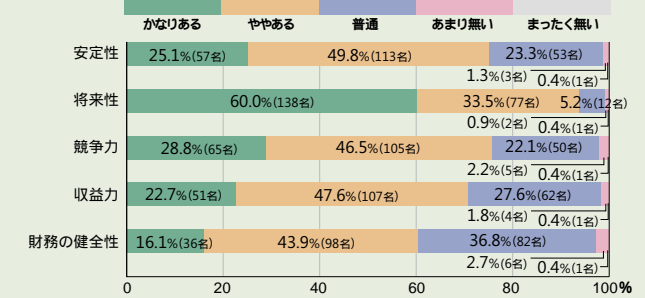
- 事業報告書の内容、デザインともに良かった。トップインタビューでの今後の方向性、戦略等の説明が分かり易かった。
- PFI事業、介護付有料老人ホーム事業の内容についてさらに詳しい記事が欲しいと思います。
- 今後さらに競争が激化するであろう、ライフケア部門の事業展開・戦略等について情報公開して欲しい。
- 経営理念および戦略に共感し、株主となりました。東京地域での説明会に伺えればと思います。
- 上場されて間もないので、これからの事業において知名度をもっと上げて欲しい。

前回の事業報告書に対しては、総じて高い評価をいただくことができました。今回は特集コラムとして経営支援型SPCシステムを、ビジネストピックスとして3つのトピックスを紹介いたしました。上場間もない当社としては株式市場での認知度、会社や事業内容に対する正確な理解度の向上が重要課題であります。事業報告書のさらなる内容充実や、会社説明会の開催など積極的なIR活動を通じ、当社に対する総合的な理解促進に努めてまいりたく思っております。

当社に対するイメージ

「かなりある」「ややある」の割合をそれぞれの項目で見ると、「安定性」=74.9%、「将来性」=93.5%、「競争力」=75.3%、「収益力」=70.3%、「財務の健全性」=60.0%となり、総じて高い評価をいただくことができました。このようなご評価をこれからも株主の皆様からいただけるよう、より一層の事業・財務基盤の強化・改善に努めてまいりたく思っております。

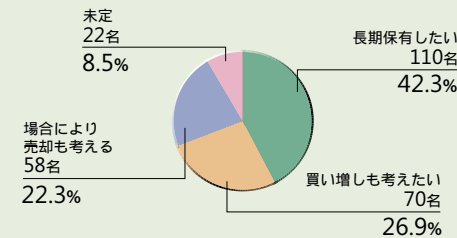
●当社に対するイメージ



当社株式に対する投資スタンス

長期保有したいという方が42.3%、買い増しも考えたいという方が26.9%と、保有スタンス以上の方が全体の約70%を占める結果となり、大変嬉しく思っております。皆様のこのようなご期待に応えるよう、これからも日々の経営に邁進していく所存でございます。

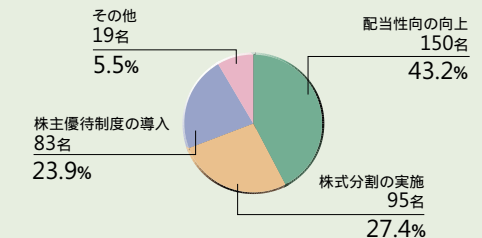
●当社に対する方針



株主政策の中で重視する点

①配当性向の向上=43.2%、②株式分割の実施=27.4%、③株主優待制度の導入=23.9%、④その他=5.5%という順位となりました。株主還元は重要な経営テーマの一つであり、今後ともその内容の充実にも努めてまいりたく思っております。

●株主政策として何を重視するか



会社情報

(2005年9月30日現在)

■ 会社概要

商号 ● グリーンホスピタルサプライ株式会社
設立 ● 1992年8月
代表取締役社長 ● 古川 國久
資本金 ● 22億8,886万円
決算月 ● 3月
従業員数 ● 連結 496名 / 単体 147名
本社所在地 ● 〒565-0853
大阪府吹田市春日3丁目20番8号
TEL : 06-6369-0092 (代)
FAX : 06-6369-3191
事業所 ● 大阪、東京、広島

■ 役員

代表取締役社長 ● 古川 國久
代表取締役副社長 ● 伊藤 忍
専務取締役 ● 小川 宏隆
取締役 ● 播戸 健
取締役 ● 小林 宏行
取締役 ● 沖本 浩一
取締役 ● 黒田 敏史
取締役 ● 滝川 博三
常勤監査役 ● 竹原 靖昌
監査役 ● 有橋 正次郎
監査役 ● 水野 昌也

■ 株主メモ

決算期 ● 3月31日
定時株主総会 ● 6月中
基準日 ● 3月31日
株券の種類 ● 1株券、5株券、10株券、50株券、100株券
中間配当基準日 ● 9月30日
1単元の株式数 ● 一
名義書換代理人 ● 大阪府中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 ● 大阪府中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) [住所変更等用紙のご請求] ☎ 0120-175-417
[その他のご照会] ☎ 0120-176-417
同取次所 ● 住友信託銀行株式会社 全国各支店
单元未満株式 ● 上記名義書換代理人がお取扱いいたします。
買取請求取扱場所
公告掲載新聞 ● 日本経済新聞
なお、決算公告(貸借対照表)は下記アドレスに掲載しております。
<http://www.ghs-inc.co.jp/>

お問い合わせ・資料請求等は、下記まで…

グリーンホスピタルサプライ株式会社

〒565-0853 大阪府吹田市春日3丁目20番8号
TEL:06-6369-0130 FAX:06-6369-3191
URL(ホームページアドレス) <http://www.ghs-inc.co.jp/>